

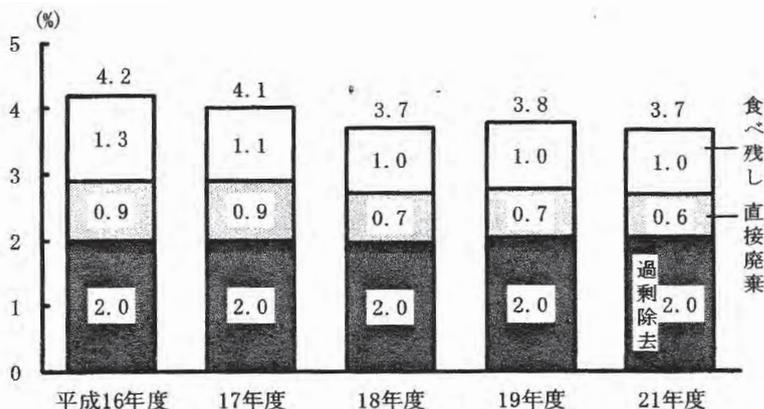
まとめ：ごみかん理事 小野寺 勲

世帯における食品ロスの実態を把握し、その減少に向けた取り組みに資するため、全国の世帯を対象として実施。有効回答数 680 世帯。全 52 ページ。毎年度実施。家庭生ごみの発生状況が見て取れます。

### ■ 食品ロス率の推移

2009年度の世帯における食品ロス率は3.7%。食品ロスの内容としては、「過剰除去」が2.0%と最も高く、次いで「食べ残し」1.0%、「直接廃棄」0.6%の順になっている。

年次別にみると、「食べ残し」や「直接廃棄」が徐々に減少しており、全体として漸減傾向にある。



※食品ロス率 (%) = (過剰除去重量 + 直接廃棄重量 + 食べ残し重量) / 食品使用量 × 100

過剰除去：大根の皮の厚むきなど、不可食部分を除去する際に過剰に除去した可食部分。

直接廃棄：賞味期限切れ等で、料理・食品として提供されずに廃棄したもの。

食べ残し：料理・食品として提供されたもののうち、食べ残して廃棄したもの。

### ■ 主な食品別の食品ロス率 (2009年度)

主な食品別に食品ロス率をみると、果実類 8.9%、野菜類 8.7%、魚介類 5.9%と生鮮食品で高い。それは、主として「過剰除去」によるロス率が高いことによる。

